

ベトナム・ホーチミン

月曜掲載



渡邊 豊さん

新発田市出身

芯の強さが成長の源

ベトナム最大の経済都市ホーチミンに住んで28年になります。ベトナムはアジア諸国の中でも発展著しい国として注目され、無数のバイクの喧騒はある意味、この国のシンボルにもなっています。

ホーチミンの中心部には建設途上の高層ビル群があちこちにあります。イルミネーションを施したモダンなショッピングモールもあります。人々は買い物を楽しみ、道にはバイクだけでなく、ベンツやポルシェ、E.V車など高級車がたくさん走っています。



発展目覚ましいホーチミンのビル群

ちなみに、ベトナムでは、バイクのことを「ホンダ」と言います。日本製品の質の良さから、日本人への尊敬の念も抱いているようです。人々の親日ぶりは、日本の技能実習生の多さからもうかがえます。

食べ物も日本と同じくコメが主食で、フォーをはじめとする麺文化も根付いています。他の料理も塩やしょうゆによる味付けを基本

とし、箸を使うところも日本と同じです。

興味深いのは、人々の祈り方で日本人のように「合格祈願」といった具体的なものではなく、「良い縁との巡り会わせをください、それに気付いて縁をつかまえられるように」といった抽象的なものだそうです。

仏教国であり、道行く人の顔つきもどことなく日本人に似ています。アオザイを着た女性のイメー

が強く日本人との違いを感じます。

一党支配の社会主義国ですが、それほどの息苦しさを感じないのは、本音では独裁や強権を嫌い、緩やかにバランスをとろうとする「合議制社会主義」が根付いているからだと思えます。

ベトナムの成長の源泉は、他国の支配を受けながらもしたたかに生き抜き、大国の米国を相手に戦った人々のたくましさにある。メコン川の流れを思わせるホーチミンのバイクの大群を見ると、そんな感慨が湧いてきます。

(渡邊さんは新潟ベトナム協会会長、ASEAN新潟県人会連合会会長を務めています)

海外で暮らす本県関係者が現地の様子を紹介します。ウエブサイト「新潟日報デジタル」にも掲載。執筆希望も受け付けています。

